

長期戦略:テーマ 「教育分野の再編」

提出日 2023年 1月 24日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	小野総合企画部長 (総合企画部)	実施計画の 担当部署	学長室・総合企画部
-----------------------	---------------------	---------------	-----------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(4)-② 分野再編の具体的な立案(KSC再編・活性化)	2019年度	2024年度	必要なし	不要
内容 <p>2017年4月に制定された超長期ビジョンにおいて、神戸三田キャンパスの活性化は中心的な課題として位置づけられている。</p> <p>中でも、理工学部の競争力低下は、理系進学者を多く抱える上位進学校に対し、大学全体のブランドに深刻な影響を与える可能性があり、理工学部の課題は全学の課題と言える。したがって、理工学部の再編を行うことは急務と言える。</p> <p>これを受けて、2017年夏には、学長のもとに理工学部再編WGが設置され、具体的な再編案を検討してきた。この検討結果を踏まえ、理工学部を3つの学部(理学部、工学部、生命環境学部)に再編するとともに「建築学部」を新設しつつ、既存の総合政策学部の活性化を行う。</p> <p>なお、「KSC再編・活性化委員会」を改編した「KSC戦略推進本部」、7-(2)「KSCの競争力強化」や8-(11)「ブランド構築」の各計画とも連動して進める。</p>				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	理・工・生命環境科・建築・総合政策の各学部における入試難易度(偏差値)	(現状:2017年度) 理工学部:非公表 / 学外教育情報機関における偏差値 総合政策学部:非公表 / 学外教育情報機関における偏差値		
指標2	KSC戦略推進本部と連動して定める			
指標3				

目標1<指標1>理・工・生命環境科・建築・総合政策の各学部における入試難易度(偏差値)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	非公開					
実績						

目標1<指標2>

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標						
実績						

目標3<指標3>

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標						
実績						

2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
KSC 再編・活性化	策定段階	構想策定 (教育内容、入試種別、 設置申請準備等含む)	申請 (広告、教員採用等含む)	開設(1年目)	開設(2年目)	開設(3年目)
	2023年3月 末段階	構想策定完了 設置申請準備中	設置申請完了(4月) 設置認可(6月) 広告、採用手続等実施中	設置状況報告(5月) 広報等実施	設置状況報告(5月) 広報等実施	設置状況報告(5月) 広報等実施
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階	完成年次、カリキュラム 見直し等	-	-	-	
	2023年3月 末段階	-				
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階					
	2023年3月 末段階					
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階					
	2023年3月 末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】

非公開

経費 単位:万円

2019年度 承認

2020年度 承認

2021年度 承認

2022年度 承認

2023年度 承認

2024年度

左記以降

非公開

人員・人件費 単位:万円

2019年度 承認

2020年度 承認

2021年度 承認

2022年度 承認

2023年度 承認

2024年度

左記以降

非公開

4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	KSC 再編活性化委員会の下、各学部設置準備委員会や各サブ委員会等が密な連携を行い、設置申請届出や入試広報施策等スムーズに行うことができた。
2020 年度	KSC 再編活性化委員会の下、入試広報施策を実施し、受験者数昨年比 1.44 倍の成果を得た。また、新人教員着任準備や同研究室設置工事、KSC「合同」事務室の実施等に取り組んだ。
2021 年度	KSC 戦略推進本部の下、You Tuber 等を活用した入試広報施策を展開して、受験者数は昨年比 1.13 倍で 2 年連続での増加という成果を得た。また、KSC の特長の一つである分野横断型教育プログラムを活性化させるため、学生の意識醸成イベントを実施するとともに、「SPring-8 ビームラインを活用した PBL 授業」も開講し、認知度を上げることができた。
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	理系 3 学部への再編に伴う理工学部および建築学部からの要望（前倒し採用や改修工事等）について、現在検討中である。
2020 年度	至上命題である「受験生確保」に向けて、高校訪問や Web 広報、動画コンテンツ公開など複合的・包括的に力を注ぐ。
2021 年度	昨年度のみにならないよう「受験生確保」に向けた各種入試広報施策に取り組む。また新棟建設にあわせて、Sustainable Energy 一大拠点等支援を行う。
2022 年度	これまでに実施された広報施策の効果検証を行いながら、さらなる「受験生確保」に向けた各種入試広報施策に取り組む。また、KSCⅧ号館の供用開始にあわせて、天体望遠鏡を使った公開イベントや Sustainable Energy 一大拠点、分野横断型教育プログラム等の KSC の特長をさらに発展させるための支援を行う。
2023 年度	
2024 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2019年度	KSC再編・活性化に伴う広告費を認めます。 また、建築学部設置に伴う事務経費を認めます。
2020年度	KSC再編・活性化に伴う教員体制上の費用、広告費、大学図書館経費、工学部目玉施策経費を認めます。
2021年度	KSC再編・活性化に伴う教員体制上の費用、広告費、大学図書館経費、工学部目玉施策経費を認めます。
2022年度	広告費およびKSC再編・活性化に伴う教員体制上の費用、大学図書館経費、工学部目玉施策経費、分野横断型教育システム広報費を認めます。
2023年度	
2024年度	

7. Total Review の結果

【フェーズⅠ(2019～2021)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> ・KSC再編活性化に伴い、必要となる入試広報費用や教員前倒し採用人件費、新プログラム実施委託経費など計画にあわせて、その費用面を見える化する。 ・最終目的である受験生獲得力向上をめざし、入試広報施策を実施する必要がある。 	継続 ・ 廃止	<ul style="list-style-type: none"> ・次の分野再編の具体的な提案の策定および経営層との認識共有

【フェーズⅡ(2022～2024)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	